

「ゆめ」実現のために「努力」をしている子ども達を 伴走していきましょう！

神石小学校長 田丸 栄

夏休み、8月5日に「神石キッズトライアスロン」が行われました。慣れない競技に暑さも加わり、子ども達は悪戦苦闘でした。途中、しんどくなって救護係に運ばれる子も何人かいました。そのような過酷な状況の中だからこそ、最後まで歯を食いしばって「走り切る」ことに意義があったのではないのでしょうか。もちろん、健康・安全には気を付けながらも、「自分の力を出し切る」場面は、学校の教育活動はもとより、ふだんの生活の中でも多くあります。「やり切る」ためには、大きなエネルギーが必要です。トライアスロンの時のように、子ども達を後押しする肯定的な大人の声。ともに活動する者を応援する友達の声。くじけそうになった時に、子どもの様子を見ながら、「これくらいまで・・・」と、ハードルを少し下げても「やり切る」という目標だけは達成させようとする人たち。一人が目標に向かって「やり切る」活動の中に、これだけでも多くの人に関わり、一体感をもちながら歩いていく。素晴らしいですね。

さて、2学期がスタートしました。2学期のスタートにあたって『『粘り強く』『やり切り』、『大きな実り』となる2学期にしよう！』ということ、子ども達に話しました。上に述べたように「目標（ゆめ）」をもち、「やり切る」ことで目標に達するという活動は、子ども達を取り巻く多くの場面で見られます。一人が「やり切ろうとする」営みを私たち大人は、子ども達の伴走者として、準備をしたり、声をかけたり、ともに喜んだりしていくことで支えていきたいですね。

保護者・地域の皆様、2学期も、朝のあいさつなど、よき伴走者となっていただくことをお願い申し上げます。

